

心理支援ツールを活用した子育て応援プログラム

—デザイン思考からの親子関係再構築支援—

Prototype of Childcare Support Program using Psychotherapeutic Activity Tools: Support for the reconstruction of parent-child relationships from design thinking

中村 泰子

NAKAMURA Yasuko

大阪市中央こども相談センター

Osaka City Central Child Guidance Center

Key words: 心理支援ツール, 子育て応援プログラム, 親子関係再構築支援

目 的

児童虐待対応における親子関係再構築支援では、家族の在り方に応じた多様なニーズへの工夫が必要である。保護者支援の多くはペアレント・トレーニングがベースになっているが、そこに至るまでの変化への準備や動機づけ段階での対応が特に難しい。デザイン思考から、主体性を尊重して気づきや体験を重視し、心理支援ツールを活用した子育て応援プログラムを実施した。心理支援ツールは、こどもの心理的ケアのために開発された非言語的アプローチで、視覚化や体験共有による感情認識やコミュニケーション促進の効果があり、被害ケアや加害再発防止対応に活用できる。ツール導入の経過や機序等を整理して考察し、支援現場からのボトムアップの取組として報告する。

方 法

実施時期: 20XX 年～20XX+8 年

対象: 社会調査や心理アセスメントを経て再統合担当による保護者支援の実施が必要とみなされた保護者

プログラム: 対象に合わせペアレント・トレーニング版またはプロトタイプ版(心理支援ツールを活用したプログラム)を実施した。表1にプログラム内容を示した。

倫理的配慮: 本研究で個人情報には取り扱っていない。発表については所属の承認を得た。

表 1. 子育て応援プログラム内容

セッション	ペアレント・トレーニング版	プロトタイプ版 (心理支援ツールを活用したプログラム)	
		テーマ	内容例
—	オリエンテーション		
1	こどもの行動を見る	家族イメージ	ふりかえりカード、イメージマップ
2	こどもの行動を分ける	現状を知る	共感マップ、人生グラフ
3	望ましい行動を増やす(ほめる)	感情に気づく	いろいろな気持ち、ハートの塗り絵
4	困った行動を減らす(叩く以外のやり方)	認識・ものの見方	色々な気持ちにつながる考え方、リフレーミング
5	環境を整える	コミュニケーション	困りますゲーム、コミュニケーションのパターン
—	ふりかえり(家族ミーティング)		

結 果

保護者支援では、①保護者の変化のわかりにくさ、②対立関係、③保護者の変化への心理的抵抗が高く動機づけが低いといった状況は、支援の停滞を引き起こす。支援の困難性や停滞は、支援者の無力感や疲弊感につながる。保護者が支援方針に納得していても、再統合担当に引き継いだ時点で動機づけがリセットされていることもある。発想を転換するデザイン思考から、当事者の在り方を尊重したコミュニケーションや視覚化・体験を重視し、心理支援ツールを活用したプロトタイプ版のプログラムを開発した(図1. 導入経過、図2. 導入機序)。結果として、当事者の主体性が尊重され、自己認識や洞察を促す効果が認められた。

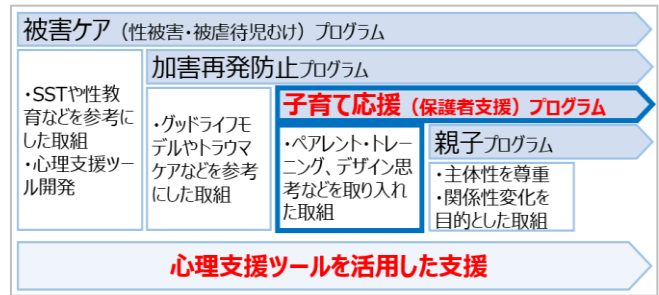


図 1. 心理支援ツール導入経過

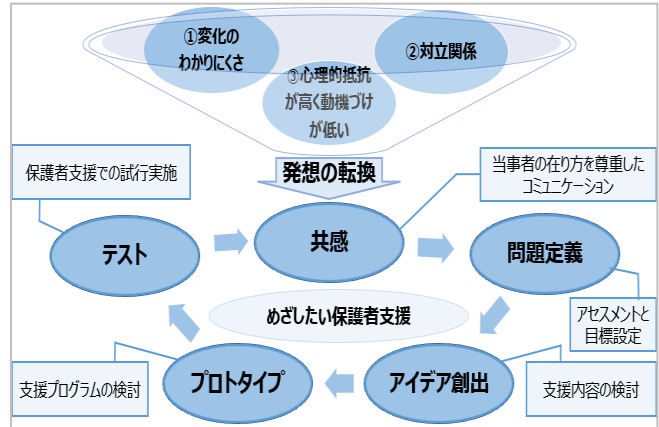


図 2. 心理支援ツール導入機序(デザイン思考)

考 察

整備された支援方法は、迅速・公平な支援の根幹となる一方で、個別ニーズをカバーしきれない側面がある。児童虐待対応の初動では特に、保護者に心理的抵抗が生じやすく、支援が難航する傾向がある。支援の困難性や停滞は、長期化すると支援者のバーンアウトにつながることもある一方で、支援を見直す契機となる。非言語的アプローチである心理支援ツールの活用は、心理的抵抗を低減し、自己認識や関係改善に役立った。デザイン思考は視野を広げる効果があり、発想や視点の転換が、支援の幅を広げ、当事者、支援者双方のエンパワメントや活力につながる。現状や当事者の在り方を尊重し、別の側面からの意味や価値を見出す姿勢が重要である。価値観や文化、生活様式などの多様化が加速し、「家族の在り方」も多様となっている現代で求められる専門性とは、エビデンスのある支援を広く公平に届けられることに加え、対象に合わせた工夫やカスタマイズできる対応力を兼ね備えることである。前者は既製品、後者は注文品にたとえられるだろうし、いずれも根幹の技術の研鑽が必要である。持続可能性に言及するなら、循環やパーソナライズを意識した視点も必要であろう。親子関係再構築支援の取組にも、時流を読む専門性のアップデートや、多様性が必要とされると考えられる。